

～ 株式投資で勝つ方法 ～ - エライ人の金言編 -  
その2 ピーター・リンチに学ぶ (全5回)

2005/06/24 太田寿一

最終回 ピーター的ファンダメンタルズ分析入門

ピーター編の締めとして、彼の財務指標に関する考え方を紹介していきます。これは株を全く知らない初心者でも、ある程度知っている中級者でも役に立つ考え方です。

**売上に対する比率**

総売上に対する、目玉商品の売上高。その商品が企業にどれほどの影響を与えているかを示す。もし比率が小さければ売上増 (株価UP) が見込まれることになる。

**株価収益率 (PER)**

PERは同業他社と比べるよりも、利益の成長率と比べたほうがより割高か割安かを判定できる。具体的には (利益成長率 + 配当利回り) ÷ PERで、これが1より大きければ割安と判断できる。

**キャッシュポジション**

その会社が持つネットベース (純粋な) 現金額。大量の現金を有しているのは良い傾向で、それを増配や自社株買い、買収などに使えるからである。ただし買収の場合は多角化であるか “多悪化” であるのかを見極めること。

**負債項目**

負債と資本の比率を見る。負債が少なければ少ないほど健全だと言える。また、負債にしても短期負債の比率が少ないほうが良い。短期負債の場合、返済日が間もないため返済不能 (デフォルト) に陥る危険性がある。

**配当**

企業にとって配当の利点の1つは、無配の企業と比べて株価があまり下がらないことである。もちろん配当が投資家にとっても有益であることに変わりはない。だが、配当を支払わないことで高い成長をすることも十分ありえる。

**簿価**

資産額を発行済株式数で割ったものである。そしてこの簿価を株価で割ったものがPBRである。これは会社の解散価値と言われているもので、1倍より少なければ実態価値より低く取引されている (割安である) ことになる。しかし資産の中には、実際には二束三文の物 (不良在庫・年代物のパソコンなど) も含まれているので、これらを除外した数字を考えるべきである。

## キャッシュフロー

キャッシュの中でも必要な支出を差し引いたフリーキャッシュフローには注意を払うべきである。それだけ潤沢な資金があるということであり、仮に多額のフリーキャッシュフローをもっていて、その経営者が多角化を考えていない場合などは、それは良い資産株となりえる。

## 在庫

在庫が増えることは悪いサインである。特に在庫の伸び率が売上の伸び率を上回っている場合は危険である。ただし自動車などの在庫はあまり心配しなくても良い。価値がそれほど低下しないからである。在庫に関しては職種ごとに考慮すべきである。

## 成長率

成長とは、経費を削減し、値上げを行うことで収益を増加させていることである。成長と拡大は違うものである。P E R が成長率よりも低いなら、それは良い投資対象と言える。

## ボトムライン

ボトムラインとは損益計算書の最後に書かれている税引き後利益のことである。だが考慮すべきなのは税引き前利益であり、これを重要な財務指標として考える。同業他社と比較して高い利益率を出している企業を選ぶべきである。ただし業績回復株を狙うなら、利益率の低い会社の方がより高い変化率をはじき出すので、低い方が良い。

### ピーター・リンチの金言コーナー

- ・ 1つとして、等しく同じ株などない。
- ・ 最高の銘柄は、すでに持っている銘柄の中にある。

参考文献 『ピーター・リンチの株式投資の法則』(1994)

ピーター・リンチ(著) 酒巻英雄(監訳) ダイヤモンド社

『ピーター・リンチの株で勝つ—アマの知恵でプロを出し抜け』(2001)

P・リンチ&J・ロスチャイルド(著) 三原淳雄・土屋安衛(訳) ダイヤモンド社

『マネーマスターズ列伝~大投資家たちはこうして生まれた』(2000)

ジョン・トレイン(著) 坐古義之・臼杵元春(訳) 日本経済新聞社